

古川中学校3年 永倉 允友季

私は長崎の平和学習を終えて、思ったことは、2つあります。

1つ目は戦争は二度起きてほしくないと思いました。理由は、意味もなく多くの人が亡くなるのは今後見たいとは思わないし、広島や長崎に落ちた核兵器もおそろしいけど、核兵器よりも勢力が強い兵器が作られて日本に落ちたとなったら、どうなるか分からないし、日本が血に染まると思うとおそろしいからです。

2つ目は、戦争は二度起きてほしくないというのはありますが、正直の本音は、あまり興味がないという所です。理由は、広島や長崎の原子爆弾の話で何万人もの人が亡くなって家族や友達が突然いなくなったという話を聞いて、当時はすごく大変だったのだなとは思っていたけれど、ただそれだけという感情がなくてなんだかなと思ったからです。

平和学習の講話を聞いて思ったことは、原子爆弾は暴風で人や物が飛ばされたり、「ドーン」という爆音が鳴ったり、熱線と放射線、空には大きなキノコ雲が広がったりして熱線によって即死した人や大やけどして川に飛び込む人、放射線によって永久に直らない病気にかかった人が大勢いて一瞬にしてその場が地獄になった情景が見えてよく考えたらゾッとしました。きっと当時の人は今の私たちよりもずっとおそろしかったと思います。

周りの人に伝えたいことは、毎日、誰もが楽しく笑顔で、安心して暮らせる環境に感謝して1日1日を大切にしていけることを伝えていきたいと思います。

古川中学校2年 中村 颯稀

教育が受けられること。それは今を生きる私たち小中高生には「あたり前」だと思っていました。その考えを改めたのは、被爆者である池田さんのお話を伺った時です。

1945年8月9日11時2分。これは長崎に原爆が投下された時間です。正確に知っている人は少ないだろうと池田さんはお話になりました。私も、原爆といわれると、広島を思い浮かべます。長崎に原爆が落ちたことは知っています。ですが、よくは知りませんでした。

長崎の原爆の破壊力は広島の前爆の約1.3倍強力だったと言われています。爆風により人や物がとばされ、熱により、あたりが黒く焼け、人が苦しんで亡くなる様を見たことがありますか？若い人達は、爆弾が落ちる音も生で聞いたことのない「平和」を過ごしています。もちろん私もです。戦争中の学校は、軍事のことばかりを教えます。夜は電気をつけられません。ぜいたくは禁止です。来る日も来る日もいもを食べます。今の私たちの受けられる「あたり前」の教育は、本当に「あたり前」なのでしょうか。

平和とはなんでしょう。池田さんが私たちに聞きました。平和は気づいてなくとも側にあるんですよ。と教えてくださいました。私は、中学校の仲間、同級生、後輩、先輩とすごせるのが平和なんだ。と考えます。皆さんの平和とはなんですか？

古川中学校3年 松井 夏音

私が、この2日間の平和学習で感じたことは、実際に訪れることで当時の悲惨な状況を深く知ることができる、ということです。

フィールドワークや資料館見学を通して、熱線により黒く変色してしまった石や、当時の姿のまま残っている。旧浦上天主堂の遺壁、被爆者の方の訴え、自分自身も被爆し大けがを負いながら救護活動を行った、永井隆博士など教科書では知ることのできない長崎を知ることが出来ました。テレビや教科書でも、広島・長崎は世界で唯一、核兵器が実戦使用された場所であり、平和とは何か、今を生きる私達に大切なことは何か、問いかけてくるけど、どうしても広島の印象が強く、平和学習で訪れるまでは、あまり長崎について知ることがなかったし、広島のイメージが強い人が大半だと思います。だからこそ、教科書やテレビが、与えてくれる情報だけで満足するのではなく。一步踏み出して現地に行ってみたり、本で調べたりすることで、今までの考えが変化すると感じました。

また、講話をしてくださった池田さんは、「勉強は、しなくても何とか生きていける。だけど、お互いを理解しあうためには、勉強することが大切。」と教えて下さいました。私は、中学3年生で受験生です。高校に入るためには、勉強しないといけないし、就職するためには必要だと思っていました。

だけど、それは違っていて高校は、なりたい自分への通過点であり、もちろん勉強することは大切だけど、お互いを理解しあうためには、その一瞬のための勉強ではなく、さらに深く勉強し長い時間がかかることが大切なんだということが分かりました。

私は、この2日間を通して、改めて戦争という過ちは二度と繰り返してはいけないと考えさせられました。しかし、今この瞬間にも世界では、戦争や紛争により尊い命が奪われています。

だからこそ私は、池田さんのお話にもあった自分には何ができるのか、自分は何がしたいのか、1分1秒無駄のない生活を心がけていきたいし、これが今、平和のために私ができることです。



◀ 被爆者の池田さんによる
被爆体験講話。

原爆投下後の長崎のまちの光景の説明や、原爆によって家族全員を亡くし、家族を自らの手で火葬した悲痛な経験を話しているようす。

古川中学校3年 松下 芽生

私が、今回の長崎平和学習で感じたことは、私たちの今の生活は当たり前じゃないということです。私がそう思ったのは、戦時中の子供たちは皆、同じ様な髪形や服装で、学校の授業の内容も戦争のことばかりで、食べ物も今の私達は毎日、色々な物を食べることが出来るけど、昔は、芋とかイワシなどの質素な食べ物ばかりでお米も誰かが病気になった時にしか食べる事が出来なかったり、「贅沢は敵だ。」といわれていて今とは全く違う生活を送っていたということを学びました。

また戦争で、家族や大切な人を失ってしまった方や原爆が落とされて家を失ってしまったり自分が暮らしていた町の景色が消えてしまったという事を学んで今の生活は当たり前じゃないんだなと思いました。

そして、私は今の当たり前の様な生活の中で食事や学校の授業、家族、友達などに感謝して生きていきたいと思いました。被爆者の池田さんから「今の生活は平和でとても幸せだ、でもそれは当たり前じゃないんだぞ。」「だからたまには平和について考えてほしい。」とお話をしてくれました。なので、私もたまには平和について改めて考えてみようと思いました。また、池田さんは、「将来のために1分1秒も時間を無駄にしないで欲しい。」とおっしゃっていたので明るい将来のためにたくさん勉強をして自分の将来を創ってみたいです。

神岡中学校2年 森下 拓利

今回の長崎ピースフォーラムを終えて、より平和について知れました。

初めに向かった資料館ではこの日本で起きた戦争で落とされた原爆の影響が写真や動画で表されていました。その資料ひとつひとつが原爆の威力を物語っており、溶けた硬貨やガラスが刺さった服、破壊された学校の一部など。どれも悲しく、心に響くものでした。次に向かった平和記念公園にある記念像の意味を知りました。作者の作った時の想いが像として表現されていて、悲しみの感情が伝わりました。被爆直後の天主堂は八割が崩れていて、浦上天主堂の石像の手や頭が消えていました。のちに天主堂の一部は平和記念公園に置かれ、ほかの部分は修復をして現愛の天主堂となったそうです。近くには鐘に上部が残されていました。爆風がどれだけ強いかがわかります。

今回の研修で戦争をしてはいけないとわかりました。二度と原爆を使っても持ってもいけない。できるなら武器を使ってもいけない。この研修はこのことを伝えてくれました。戦争は絶対に再び起こしてはいけないと思いました。悲しみと恨みだけが残る、ほかに残るものはありません。原爆を世界から無くしてほしいと、この研修で学びました。

古川中学校3年 柚原 天音

長崎に平和学習に行って、改めて戦争の怖さと平和への理解が深まったと思いました。

1日目の「原爆遺構を巡るフィールドワーク」では、当時の状況や原爆などについての説明を原爆落下中心地や壊れた像、浦上天主堂や山里小学校などといった様々な場所を実際に見ながら聞くことで想像しやすく、戦争の怖さへの理解に近づくことができました。

「原爆資料館見学」では、実物大の原爆の模型があったり、細かく説明が書いてあったり、分かりやすかったです。2日目の「被爆体験講話」では、池田松義さんのお話の内容や話し方がリアルで、原爆の怖さが文章より強く伝わってきました。また、池田さんの話し方や表情から、当時のつらさや怖さ、戦争に対する気持ちが強く伝わってきました。人が言葉で伝えていく大切さが分かりました。長崎平和学習での2日間で特に印象に残っているのは3つです。

1つ目は、フィールドワークの際に教えていただいた、永井隆さんについてのお話です。永井さんは、放射線医師で、昭和19年に医学博士になったそうです。原爆がさく裂した際、被爆して自らも重い傷を負ったのにもかかわらず、その直後から負傷者の救護や下爆障がいの研究に献身的に取り組んだそうです。この話を聞いた時、この人は他の人を大切に助けてあげることのできる優しくて凄い人なんだなと思いました。私だったら自分が生き残ることで頭がいっぱいになってしまうと思います。他の人の事を考えたり、何かをしてあげることが出来ないと思います。自分が重傷を負っているのなら尚更、他の事を考える余裕が無くなってしまうと思います。そんな時、他の人のために動けた永井さんは本当に凄い人だと思いました。「己の如く隣人を愛せよ」（自分を愛するようにまわりの人を愛しなさい）この言葉通り自分のように隣人を愛した永井さんはたくさんの本を残しました。その本の中の言葉で私が一番素敵だと思うのは「闘争だの戦争だのという騒ぎは、おくびょう者がやるものである。「愛」の人は、すなわち「勇」の人であり、勇の人は武装しない。武装しない人は戦わない。つまり「平和」の人である。」（平和塔より）です。長いですがこの言葉が素敵だと思います。武装して戦う準備をしてしまった人は和平を願う資格はない、敵まで愛することが出来る人が本当の意味で強い人である、と言っているのだと思います。なるほどなと思ったし、すごい素敵な考え方だと思いました。こういった考えを持てる永井さんは凄いと思ったし、相手を愛するといった真似できる考えは真似していきたいと思いました。

2つ目は、原爆資料館にあった11時2分で止まった時計です。長崎に原爆が落とされ上空500メートルでさく裂した時刻は、8月9日11時2分です。その11時2分で止まっている時計が印象に残っています。黒くなっていたり、壊れていたりする時計が数個ありました。本当に広い範囲で多くの人に被害があったんだと改めて理解しました。柱時計の寄贈者さんのメッセージで、「戦争や原爆は絶対にしないほしい。そのために役立ててほしい。」と書かれていました。一目見ただけで原爆の被害の大きさと恐ろしさが分かる

時計でした。また、数々の時計を見ているときに、この時計は11時2分で記憶が止まってしまっているんだと少し複雑な気持ちになりました。

3つ目は、池田松義さんのお話にあった質問です。講話の中で「あなたの思う平和って何ですか。」という質問がありました。その時、私を含め皆が答えられませんでした。私は戦争や原爆が無くなる事だけが平和だとは思いません。しかし、平和が何かと聞かれても言葉で表すのは難しいです。犯罪やいじめ、貧困などといった様々な問題があるのが現状です。それらの問題が解決したとして、その時平和と言えるかは分かりません。今の私の暮らしは平和だと思いますが、他の人や他の場所に住んでいる人は私の暮らしを見ても平和だと思わないかもしれません。だから私は一人だけの考えで平和が何かを決めたくないともしました。これから平和になっていくだろう日本や世界を見て、家族や友達の思う平和を聞きながら、平和について考えていきたいと思いました。

長崎平和学習の2日間で、新しい事が知れたし、改めて平和について考えることができて良かったです。

古川中学校2年 柚原 里香

私たちが住んでいる飛騨市。空襲の被害はなく、生死の境をさまようような話もないと思う。私は曾祖父の出征時の写真を見たことがあるくらいで、戦争の話を聞ける歳になる前に曾祖父は他界した。今まで私は戦争の実感がないまま、平和について授業でしか考えてこなかった。そんな中で長崎に行く機会を得て、実物を見たり話を聞いたりした事で、「平和」とは何か見直すことができたと思う。

長崎に着いて私は、人も多く、発展した街だなと感じた。路面電車やバスが何本も走っていたり、船で海に出て魚をとっていたり、原爆が投下されたと思えなかった。しかし資料館や防空壕が残されている場所、原爆投下地に行って、ここで何があったかをゆっくり感じてきた。熱線で焼かれた瓦やお米、たくさんの人が生き延びるために広く深く掘られた防空壕。どれも戦争が起き、原爆が落ちたという事実を証明していた。

特に私は、被爆体験の話が心に残った。「ピッシャー」という爆音と閃光。全てが破壊され、黒い雨が降り続いたという話。そして家族は表皮が垂れ下がり「水が欲しい。」と訴え続け、亡くなったという話。昨日まで笑っていたのに次の日には遺体として焼かなければならなかったという悲痛な思い。随分と前の話だけど、実際に経験された方の口から話を聞くことで、その情景が最近の出来事のように感じ、鮮明に想像することができた。この話はずっと私の心に残ると思う。あったかい布団で寝ることや美味しいご飯を食べること、無事に家に帰れること。今の生活は当たり前ではなく、平和だからこそできる生活だ。身近な所にある平和に気づいて感謝することが大切だと学ぶことができた。

長崎が復興できたのは1日に22時間働いていたからだ、あなたは今努力しているかと問いかけられた。何をしたいか真剣に考え、これからの社会を作ってほしいと頼まれた。

私はいろんなことを吸収して、学びを広く深めて頑張っていきたいと強く思った。
日本最後の戦争、太平洋戦争から77年たち、日本の80%以上の人戦争を体験していない。戦争体験者の平均年齢も85歳となり、話を聞ける機会が減少している今、私たちがどれだけ平和について考えることが大切になってくると思う。

・松山公園（原爆落下中心地）



原爆により破壊され、わずかに残った旧浦上天主堂の堂壁。



被爆当時の地層。家の瓦やレンガ、溶けたガラスのビンなどが大量に埋没している。

・浦上天主堂



原爆投下14年後の1959年に再建された後、レンガスタイルで改装され復元された。



当時の浦上天主堂の鐘楼。爆風により崖下の小川まで吹き飛んでいる。

・如己堂／永井隆記念館



永井隆博士の病室兼書斎。「己の如く隣人を愛せよ」という言葉から如己堂と名付けられた。



永井博士は被爆し白血病に罹りながらも執筆活動続け、浦上の人々を励まし続けた。

・山里小学校



児童約 1,600 名のうち、8 割が命を奪われた。校舎内の防空壕は今もそのまま残っている。



原爆により当時の校舎はほとんど燃えてしまった。写真は当時の手すりの焼け跡。

・平和公園



長崎市民の平和への願いを象徴する平和祈念像がある。この像の前で祈念式典が行われる。



平和の泉。被爆し水を求めてさまよった少女の手記を刻んだ石碑が設置されている。

・原爆資料館



被爆の惨状、原爆が投下されるに至った経過、核兵器開発の歴史などが展示されている。



左側の黄色い物体が実物大の「ファットマン」の模型。



11時2分を指して止まった柱時計

・被爆体験講話



被爆者の池田さんによる被爆体験講話は、当時の生活の様子から被爆時の状況、被爆後の生き方や長崎の復興の様子など、当時の情景が目には浮かぶような鮮明なお話であった。

【感想文抜粋】

- 戦争により家族や大切な人を失ったり、原爆で住んでいた家がなくなり自分の暮らしていた街の景色すら消えてしまったり、今の生活が当たり前の生活ではないということ学びました。
 - 当たり前に食べられることや、当たり前に学校の授業が受けられること、当たり前に家族や友達がいることに感謝して生きていきたいです。
 - 戦争の体験を言葉で伝えていくことの大切さを知りました。
 - 毎日、誰もが楽しく笑顔で、安心して暮らせる環境に感謝して1日1日を大切にしていけることが大事だと、周りの人に伝えていきたいです。
 - 平和は気づいてなくとも側にある。私は、学校の仲間、同級生、後輩、先輩と当たり前に過ごせることが平和だと考えました。
 - 自分には何ができるのか、自分は何がしたいのか、1分1秒無駄のない生活を心がけることが、今の自分が平和のためにできることだと思いました。
 - 私は戦争や原爆が無くなる事だけが平和だとは思いません。しかし、平和が何かと聞かれても言葉で表すのは難しいです。だから私は一人だけの考えで平和が何かを決めたくないなと思いました。これから平和になっていくだろう日本や世界を見て、家族や友達の思う平和を聞きながら、平和について考えていきたいと思いました。
 - あったかい布団で寝ることや美味しいご飯を食べること、無事に家に帰れること。今の生活は当たり前ではなく、平和だからこそできる生活であり、身近な所にある平和に気づいて感謝することが大切だと学ぶことができました。
 - 戦争体験者の平均年齢も85歳となり、話を聞ける機会が減少している今、私たちがどれだけ平和について考えることが大切になってくると思いました。
- ①今、安心して生活できることや、家族や友人と不自由なく暮らせることは決して当たり前のことではない。身近にある平和に気づいて感謝し、1日1日を大切に生きるべき。
- ②平和のためにできることは、自分に何ができるか、自分は何がしたいのかを考え、その目標や生き方に向かって1分1秒無駄にしない生活を心がけること。また、戦争の時に生きていた方のお話を聞き、自分で平和についてどれだけ考えられるかが重要である。